《教養科目》

科目名	情報処理Ⅰ				
担当者氏名	中平　浩介				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 教養 ○　2-2 知識・技能 ◎　3-3 汎用的技能				

《授業の概要》
ICT(Information & Communication Technology)社会の到来を受け、情報処理技術が職場や日常生活の中に広く普及しておりその修得が期待されている。そこでこのような社会のニーズに応えるため、ワープロ、表計算といったアプリケーションについて学び、またインターネットを利用する際の注意点及び実習を通して検索技術、タイピング技術、情報倫理に関する知識についても学ぶ

《授業の到達目標》
情報倫理について説明できる
キーボードのスムーズな操作ができる
ワードの基礎的な操作ができる
エクセルの基礎的な操作ができる
パワーポイントの基礎的な操作ができる
インターネットを使って情報検索ができる

《成績評価の方法》
定期試験（70%）を基本とし、小テスト（20%）Web問題（10%）授業態度等を考慮して総合的に評価し、60%以上を合格とする

《テキスト》
大石博雄　イチからしっかり学ぶ！「Office基礎と情報モラル」(Office365･Office2019対応) noa出版
大石博雄　2023年度版情報倫理ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ」noa出版 Webﾃｽﾄ

《参考図書》

《授業時間外学習》
テキストにある練習問題を中心に実習形式で学修するので授業計画に記載してある内容を予習しておくこと。時間内に終わらない問題については、次の授業までに完成させておくこと
タイピング練習を5分～10分程度行うこと
毎回の授業について、予習、復習（概ね1時間）の自己学習が必要である

《課題に対するフィードバック等》
提出された課題については内容を確認し、講評などでフィードバックする

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本学コンピュータシステムの概要	本学ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｼｽﾃﾑの利用方法、ﾈｯﾄﾜｰｸを利用するための留意点、個人用ﾌｫﾙﾀﾞ、ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞの扱い、Web教材について　準備学習：ﾃｷｽﾄP2-34を読んでおくこと。
2	情報倫理、インターネット	情報ｾｷｭﾘﾃｨ、情報ﾘﾃﾗｼｰ、著作権、個人情報の取り扱い、ﾈｯﾄｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ、ｳｲﾙｽ 準備学習：情報倫理ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸの1･2を読んでおくこと。
3	情報倫理、タイピング	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀを利用するために必要不可欠なｷｰﾎﾞｰﾄﾞ操作（ﾀｲﾋﾟﾝｸﾞ） 準備学習：情報倫理ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ3･4を読んでおくこと。
4	ワードの基礎（起動と設定）	起動、ｽﾀｰﾄ画面構成、新規作成、文書画面構成、ﾘﾎﾞﾝ、IME設定、入力と変換、範囲指定、一括変換と文節変換　準備学習：ﾃｷｽﾄP35-59を読んでおくこと。
5	文書作成(チラシ作成)	書式設定、インデント、タブ、表の作成、ワードアート、画像の挿入、図形の作成 準備学習：ﾃｷｽﾄP60-80を読んでおくこと。
6	文書作成(レポート作成) 小テスト①	表紙の作成、編集、図の挿入、グラフの挿入、引用、図表番号、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正　準備学習：ﾃｷｽﾄP81-98を読んでおくこと。
7	エクセルの基礎、表の作成	起動、ｽﾀｰﾄ画面、ﾌﾞｯｸの新規作成、画面構成、範囲指定、終了処理、表の作成 準備学習：ﾃｷｽﾄP100-122を読んでおくこと。
8	表の編集	印刷イメージの確認、改ページ、ページ設定印刷タイトルの設定、ﾍｯﾀﾞｰ、ﾌｯﾀｰ、印刷 準備学習：ﾃｷｽﾄP123-129を読んでおくこと。
9	計算の設定	計算式、数式、演算記号、参照 準備学習：P130-141までを読んでおくこと。
10	関数計算　小テスト②	関数の利用、SUM関数、AVERAGE関数、ROUND関数、ROUNDUP,ROUNDDOWN関数、INT関数、IF関数　準備学習：P141-152までを読んでおくこと。
11	グラフ作成	ｸﾞﾗﾌの種類、ｸﾞﾗﾌ作成、移動とｻｲｽﾞ変更、ｸﾞﾗﾌの要素、ｸﾞﾗﾌの編集、複合ｸﾞﾗﾌ 準備学習：P153-176まで読んでおくこと。
12	パワーポイントの基礎	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝの基本、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝの要点、形式、ﾂｰﾙ、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝの流れ、適切なｺﾞｰﾙ設定　準備学習：P178-190までを読んでおくこと。
13	パワーポイントの起動と作成	起動、ｽﾀｰﾄ画面、画面構成、ｽﾗｲﾄﾞ作成、効果の設定　準備学習：P191-219までを読んでおくこと。
14	パワーポイントの編集	ﾜｰﾄﾞｱｰﾄ、SmartArt、ｵﾝﾗｲﾝ画像、Excelの方とｸﾞﾗﾌの挿入、図形の作成 準備学習：P222-P234までを読んでおくこと。
15	セキュリティと情報モラル	コンピュータウイルス、スパイウェア、著作権、個人情報保護、ルールとマナー 準備学習：P250-P287までを読んでおくこと。

《教養科目》

科目名	英語ＩA				
担当者氏名	ロス　マシュー　デビド　ケシー				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 教養 ○　2-2 知識・技能				

《授業の概要》
日常会話と専門的英語を学修します。場面を設定しそこでの対話を考えます。エッセイに関しては作成後個別に教員が対面で指導を行います。

《テキスト》
English Day
Robert Hickling
2023　Kinseido publishing

《参考図書》
その都度指示します。

《授業の到達目標》
(1) 英語を学ぶことと使うことを楽しむことができる。
(2) 英検の準二級合格に備えることができる。
(3) 日常単語とフレーズを使う事ができる。
(4) 基本文型（前置詞や複数形や関係代名詞を含む）を使うことができる。
(5) 英語が使われる場所や地域の文化的側面を語ることができる。

《成績評価の方法》
評価方法
宿題と授業中の課題 60%
出席と参加態度　20%
中間と期末試験　20%

《授業時間外学習》
(1)学生は毎日最低15分英語を勉強することが望ましい。
(2)学生はテキストの単語とフレーズを暗記する。
(3)日記を書くこともいい方法である。
(4)英検を受験して熟達度を測る。
(5)一時間程度の宿題が出される。

《課題に対するフィードバック等》
課題返却時に口頭でフィードバックし、提出物にはコメントを記載します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	指導方針、学び方	(授業内容)ガイダンス、授業の受け方、英語の学び方、英語での自己紹介 (時間外学習) 英語での自己紹介を書いてくる
2	Getting up 1	(授業内容)現在時制・be動詞 (時間外学習) Unit １GRAMMARを解いてくる　Home Work 1を配ります
3	Getting up 2	(授業内容)質問文の作り方・答え方 (時間外学習) Unit 1の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
4	Breakfast time 1	(授業内容)現在時制・一般動詞 (時間外学習) Unit 2 GRAMMARを解いてくる　Quiz 1
5	Breakfast time 2	(授業内容)Wh-で始まる質問文　Who, what, when, where (時間外学習) Unit 2 の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
6	Getting ready for school 1	(授業内容)名詞　前置詞・複数形 (時間外学習) Unit 3 GRAMMARを解いてくる
7	Getting ready for school 2	(授業内容)There is/are 構文 (時間外学習) Unit 3 の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
8	First day of class 1	(授業内容) 代名詞 中間試験準備 (時間外学習) Unit 4 GRAMMARを解いてくる
9	First day of class 2	(授業内容)ガイダンス　個別指導面接　中間試験 (時間外学習) Unit 4 の単語を調べ、本文の訳を書いてくる Home Work2 を配ります
10	Lunchtime 1	(授業内容)前置詞　in, at, for, of (時間外学習) Unit 5 GRAMMARを解いてくる
11	Lunchtime 2	(授業内容)冠詞　a, an, the (時間外学習) Unit 5 の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
12	Shopping 1	(授業内容)WH疑問文　Why, How (時間外学習)　Unit 6 GRAMMARを解いてくる　Quiz 2
13	Shopping 2	(授業内容)Polite vs Casual 会話 (時間外学習) Unit 6 の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
14	Getting lost 1	(授業内容)過去時制 (時間外学習) Unit 7 GRAMMARを解いてくる
15	Getting lost 2	(授業内容)ガイダンス　個別英語面接　期末試験 (時間外学習) Unit 7 の単語を調べ、本文の訳を書いてくる

《教養科目》

科目名	日本語と表現				
担当者氏名	吉野　寿一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

日本語に関する基本的な内容を理解し、それを生かして、音声言語（話す）・文字言語（書く）の両面にわたっての技能の向上を図る。

グループによる協議・発表等、アクティブ・ラーニングの手法を用い、主体的・対話的な学習を通して、必要な技能を身に付ける。

《授業の到達目標》

目的・相手・場等に応じて、適切な日本語を用いて表現することができる。

音声・文字の両面にわたって、その特性を踏まえ、適切に日本語を表現することのよさを理解し、実践できる。

《成績評価の方法》

平常点（レポート・プリント等）６０％と筆記試験４０％を総合的に評価し、６０％以上を合格とする。

※授業における平常点は、授業中の課題の作品への評価や授業時間外の学修への取り組みの内容を重視する。

《テキスト》

プリントを配布する。

《参考図書》

三省堂編集部著『新しい日本語表記ハンドブック』第六版　三省堂

池田悠子著『やさしい日本語指導　音韻・音声』凡人社

《授業時間外学習》

授業で取り上げた内容について、日常の言語生活を省察し、課題及び解決策についてまとめる。また、学んだ内容を積極的に活用することで、より定着を図る。優れた日本語表現の採集を日常的に行い、日本語への自覚を高める。毎回の授業について、予習及び復習を中心に4時間の授業時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

提出されたプリント等は、内容を確認し、講評などを付してフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	コミュニケーションツールとしての挨拶と対話	コミュニケーションツールとしての挨拶・対話のあり方について理解し、演習する。時間外学習：学んだ内容について、実践したことをまとめる。
2	新聞の特質と紙面構成	新聞の特質と紙面構成について学び、複数記事の比較を通して学んだことをまとめる。時間外学習：一定期間新聞を読み続け、その特質をまとめる。
3	新聞記事から要約文・感想文へ	新聞記事を読んで要約し、感想文にまとめる方法を理解する。時間外学習：記事内容を的確にまとめた要約文になっているかを中心に推敲する。
4	要約文・感想文へのまとめ方	それぞれが作成した要約文や感想文を読み合い相互評価する。（グループ発表）時間外学習：要約文や感想文へのまとめ方について学んだことを整理する。
5	随筆から学ぶ 　レトリックを知る	文章のジャンルとしての随筆の特徴を理解する。レトリック（修辞法）を知る。時間外学習：身近な随筆の例を収集し、随筆の特徴を理解する。
6	随筆を書く 　レトリックを使う	身近な生活から題材を見つけ、レトリックを使い与えられた字数内で随筆を書く。時間外学習：書き手の思いや考えが読み手に伝わるかを中心に随筆を推敲する。
7	随筆を読み合う 　より良い表現をめざす	書き上げた随筆をグループで読み合い、相互評価する。（グループ発表・討議）時間外学習：他の随筆から学んだことを整理し、まとめる。
8	レポートや研究論文の特徴	レポートや研究論文の形式・内容について理解する。時間外学習：レポートや研究論文の例を収集し、形式・内容についてまとめる。
9	レポート作成に向けた資料の収集	テーマに即して、資料等を収集する。時間外学習：関係資料の収集、データの蓄積及びそれらをもとにした考察をまとめる。
10	レポートの作成 　説得力のある文章へ	収集した資料・データ等をもとに、説得力のあるレポートを作成する。 時間外学習：レポートとしての形式・内容を整えてまとめる。レポートを仕上げる。
11	作成したレポートの相互評価・良い表現を学ぶ	作成したレポートをグループで読み合い、相互評価を行う。（グループ発表・討議）時間外学習：他のレポートから学んだこと、今後に生かしたいこと等をまとめる。
12	接遇表現と日本語の敬語	接遇表現としての日本語の敬語のあり方について理解する。時間外学習：敬語の種類について整理し、その正しい使い方について理解する。
13	敬語の使い方：手紙文やメール等を想定して	敬語の使い方の実際として、敬語を用いた手紙文やメール文を仕上げる。時間外学習：手紙文やメール文の形式及び敬語を用いた書き方の要点をまとめる。
14	敬語の使い方：電話対応や面接時を想定して	敬語の使い方の実際として、電話や面接時を想定して演習する。（グループ演習）時間外学習：電話や面接時の敬語の使い方についての要点をまとめる。
15	今後に生きる、日本語と表現	日常の言語生活で誤りやすい日本語表現例をもとに、適切な使い方を学ぶ。時間外学習：今後の言語生活における、日本語の使用にあたっての考えをまとめる。

《教養科目》

科目名	コミュニケーション論				
担当者氏名	永杉　徹夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 教養 ○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
人と人との関係において最も重要なことは、正しく伝えあい共存していくことであり、基本となるのは「対話」である。つまりどう聴き、話し、書くかだ。対話を通していかに豊かに生きるかを、時事問題と身近な人間関係をとりあげて考える。質疑応答の時間を多くとり配布資料を中心に進める。最新の脳科学と心理学に基づき、苦しみの元となるディスコミュニケーション、つまりその「ゆがみ」についても考察する。

《授業の到達目標》
人間関係の基盤であるコミュニケーションのもつ深みを理解することによって進んで発信できるようになる。アフターコロナのコミュニケーション、人間関係は旧来とどう変わるかについて熟考する。それにより、生きがい発見の道に立つことができる。そのために必要な考え方を会得することで、より円滑な人間関係を築くための言葉にも、より強くなり、自信をもって生きていけるようになる。

《成績評価の方法》
筆記試験８０％。授業内で書いてもらう文章（提出し、後日返却）および授業内の発表なども成績に反映させる。また授業に対する真剣度、ノートの取り方、資料のまとめ方なども加味する。筆記試験のほか、これらを総合して１０％とする。総合評価６０点を合格ラインとする。

《テキスト》
教科書は使用せず、その都度コピーを配布する。

《参考図書》
貴戸理恵著『「コミュニケーション能力がない」と悩むまえに』（岩波ブックレット）2011
平木典子著『アサーション入門』（講談社現代新書）2014
渡辺 潤監修『新版 コミュニケーション・スタディーズ』（世界思想社 ）2021

《授業時間外学習》
配布した資料（コピー）の復習をする一方、日常生活の中で生じたコミュニケーション不全や会得したことを発表しあうのでそのための準備をする。テーマについてはヒントを与えておくので経験したことを代表が発表できるようにし、授業内での文章作成のための準備もしておく。
本授業では60時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》
授業の中で古今東西の名作絵本を共に読み、その奥深さを味わい、読後感を話しあう。またその感想も文章化して提出。提出された文章は添削して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義の進め方、受講の仕方について	講義の進め方に合わせて配布資料等の扱い方やノートの取り方などを説明し、受講に際しての不安や期待を話しあう
2	真の成熟への道は「対話」にある	成熟への道は「対話」の中にあるが、真の対話とは触れ合いであり、つまりは「生きること」そのものであることを知る
3	自我（エゴ）と社会のあいだにあるもの	自己と社会の間に存在するものについて考え、自我（エゴ）による差別意識から生じるコミュニケーション不全による国家間の戦争についての考えも深める
4	自己実現と自己表現の相関性	明言（アサーション）と協調のあいだにあるものと、自己表現の重要性とその裏に潜む「ネットいじめ」や虐待等の問題を明らかにする
5	最新脳科学の成果とコミュニケーション脳	脳科学が明らかにした「ミラーニューロン」と「関係は自己の鏡である」などの真意を読み解くことによって、より良い生き方を探る
6	ユーモアと笑いのもつ意味とその重要性	「解毒剤」とも言われる笑いの効用と意味を考え、生のなかに占めるユーモアの大切さを知ることによって笑顔による人間関係力を養う
7	慈悲、慈愛の意味するものとは	愛あっての人間関係で、その底にあるのは慈悲・慈愛であることの理解を深めることによって「真に生きること」が可能であることを知る
8	「道具的行為」の意味するもの	「コミュニケーション的行為」「道具的行為」などの基礎的用語の意味を理解することによって、望ましい学びと生き方とは何かを考える
9	デジタル化のなかのディスコミュニケーション	SNSに象徴される急速なデジタル化の効用と弊害について考えるとともに、「スマホ脳」についても自らの見解を持つことの大切さを考える
10	マスメディアの受容法	ニュースやネット記事の読み方を通して様々な紛争や犯罪等がなぜ頻発するのか、現実に起きている事例を取りあげ、討議しながら考える
11	「育てる」ことの科学	幼児教育とコミュニケーション能力の発達は不可分であるが、そのことを具体例を通して考えるとともに実習の成果と反省点についても話しあう
12	「食べる」ことの意味	「食べること」は作る人、食べる人のあいだのコミュニケーションであり、それはまた生きることそのものであることを心身両面から考察する
13	生と死の問題とコミュニケーション	生死の問題を現代的課題としてとらえ、生ある限り「誠実に責任をもって生きる」ためにできることとは何かについて、お互いに疑問を出しあい考察を深める
14	日本的精神と世界精神について	自国文化と世界精神について、異文化間コミュニケーションをあわせて学ぶことによって国際人としての自覚を養う
15	学習により得たこと、疑問点の話しあい	自己発見と自らの成長ぶりを返り、これまで学んだことによって得た成果や新しい経験や希望などを話しあう

《教養科目》

科目名	健康と栄養				
担当者氏名	鈴木　玉枝、古俣　智江、冨重　慶子、雨宮　一彦				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 教養 ◎　2-2 知識・技能				

《授業の概要》
健康と栄養に関わる内容について様々な知識を修得する。

《テキスト》
適宜、プリント等を配布する。

《参考図書》
必要に応じて授業の中で紹介する。

《授業の到達目標》
健康で活力のある生活を送るためには、健康と栄養とがいかに密接であるかを述べることができる。

《授業時間外学習》
授業前に配布された資料がある場合は事前によく読んでおき、予習しておく。また、授業で配布されたプリントを用いて復習し、検索して収集した情報を分析評価し整理する（本授業では29時間の時間外学習が必要である）。

《成績評価の方法》
レポート提出(70%)および授業に臨む態度等(30%)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》
レポートや提出された課題については内容を確認し、フィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	朝食と生体リズム (冨重)	生体リズムに適した朝食の役割 〔時間外学習〕授業内容の復習（3.5時間）
2	健康と薬膳 (古俣)	薬膳料理と疾病予防 〔時間外学習〕授業内容の復習（3.5時間）
3	食とアレルギー (冨重)	食事とアレルギーについて 〔時間外学習〕授業内容の復習（3.5時間）
4	健康と食事 (古俣)	自分の食事を理解し、より良い食事を目指すためには 〔時間外学習〕授業内容の復習（3.5時間）
5	食べ物と微生物 (雨宮)	微生物とは何か　微生物を利用した食品　食品の腐敗と保存　家庭生活と微生物 〔時間外学習〕授業内容の復習（3.5時間）
6	栄養と食生活 (鈴木)	生活習慣病、埼玉県食育推進計画について　収集した情報を分析評価し整理する 〔時間外学習〕授業内容の復習（4時間）
7	健康危害と微生物 (雨宮)	病原微生物とは何か　食を介した健康危害　食中毒と家庭でできる食中毒予防 〔時間外学習〕授業内容の復習（4時間）
8	スポーツ活動と栄養 (鈴木)	スポーツ活動を行う際の食事の質・量・タイミング、効果的な摂取法について 〔時間外学習〕収集した情報を分析評価し整理する（3.5時間）
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目》

科目名	子どもと発達				
担当者氏名	中村　敏男、古木　竜太、髙橋　淳一郎、東　敦子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 教養 ○　2-2 知識・技能				

《授業の概要》
本科目は、心やからだ、言葉、表現などの面から幼い子どもの発達の特性についてグループワークやその発表を通して学ぶ。保育者を目指す学生の入門的な内容の科目ではあるが、保育や子どもに興味があり、保育所等に就職を希望する学生が保育学・教育学・心理学に関する教養を高めるために学ぶことのできる内容でもある。

《授業の到達目標》
子どもの発達について様々な側面から理解し、説明することができる。また、子どもの発達に関する基礎的な知識を身につけ、今日の人間の発達に関わる課題について考察を深め、討議することができる。

《成績評価の方法》
レポート（60%）、観察記録（40%）により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》
必要に応じてプリントを使用する。

《参考図書》
必要に応じて授業の中で紹介する。

《授業時間外学習》
必要に応じて課題を出すので、自己学習を行うこと。本授業では、30時間程度の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》
レポートは授業の中でフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発達と教育（高橋）	発達の諸様相・教育の必要性についての理解〔時間外学習〕「育みたい資質・能力」「育ってほしい10の姿」について、予習・復習する。
2	からだの発達（古木）	人間の身体的側面の発達の理解〔時間外学習〕「立腰教育」「はだし保育」など「○○教育」「○○保育」について予習・復習する。
3	心の発達（高橋）	人間の心理的側面の発達の理解〔時間外学習〕発達段階と発達課題について予習・復習する。
4	言葉の発達（中村）	人間の言語的側面の発達の理解〔時間外学習〕「クーイング」「一語文」「二語文」について予習・復習する。
5	表現の発達（古木）	人間の表現の発達の理解〔時間外学習〕教育要領、保育指針の「表現」の内容を予習し、「ごっこ遊び」の復習をする。
6	発達に遅れがある子どもへの指導・支援（東）	発達に遅れのある子どもに見られる遅れの背景・要因、基本的な指導・支援の理解〔時間外学習〕障害の種別について調べ、その特性や把握の仕方について予習・復習する。
7	発達における今日的課題（東）	子どもの発達を保障する職業に就くうえでおさえるべき課題の理解〔時間外学習〕特別支援教育の目的、保育指導のあり方について予習・復習する。
8	発達と生涯学習（中村）	生涯学習の重要性の理解〔時間外学習〕これまでの学修内容から設定したテーマに基づき課題レポートを完成させる。
9	・	・
10	・	・
11	・	・
12	・	・
13	・	・
14	・	・
15	・	・

《教養科目》

科目名	ボランティア論				
担当者氏名	武内　道郎				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 教養 ○　4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

地震、津波、台風等の大規模災害、感染症の蔓延などが頻発している。公的援助が届かない部分へのボランティア活動は欠かせないものになっている。世界では、貧困や格差、紛争の続く地域などへのボランティア活動の重要度を増している。この授業では、様々な視点からボランティア活動に必要な知識や、実際にボランティアに取り組む際の準備について学び、ボランティアをやってみようという積極的な態度を培う。

《授業の到達目標》

海外におけるボランティア活動、国内におけるボランティア活動について理解し、説明できる。
ボランティア活動を行う際の課題を理解したうえで、多面的な視点や能動的な姿勢を身に付けることができる。

《成績評価の方法》

課題レポート70%、授業に臨む態度等（グループワーク、発表学修等）30%により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

プリントを配布する。

《参考図書》

猪瀬浩平(著)『ボランティアってなんだっけ？』2020年2月、岩波ブックレット
さだまさし(著)『ボランティアをやりたい！』2019年12月、岩波ジュニア新書

《授業時間外学習》

授業前：次の授業回で扱うテーマについて、文献・インターネット等を用いて自己学習する。
授業後：授業で配布された資料等をよく読み込み理解を深め、課題レポートを完成させる。
(本授業では29時間の時間外学習が必要です。)

《課題に対するフィードバック等》

課題レポートは内容を確認し、講評などでフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ボランティアのすすめ	ボランティアの概念・特徴等について。ボランティア活動の課題[グループ協議]。 ［時間外学習］自分の体験したボランティアやそのイメージを考えておく。
2	災害ボランティア	災害ボランティアと心構え、準備について。災害ボランティアの課題[グループ協議]。 ［時間外学習］どのような災害ボランティアがあるか調べておく。
3	社会福祉とボランティア	社会福祉、高齢者問題等とボランティア活動について。その課題[グループ協議]。 ［時間外学習］どのような福祉分野のボランティアがあるか調べておく。
4	環境問題とボランティア	環境問題やSDGｓの視点からの活動。私たちにできる環境保全[グループ協議]。 ［時間外学習］私たちにできる環境保護活動でのボランティアについて調べておく。
5	国際社会とボランティア	様々な国際組織、活躍する日本人について。海外ボランティアの課題[グループ協議]。 ［時間外学習］発展途上国でのボランティアはどんなものかを調べておく。
6	教育・子育てとボランティア	教育・子育て分野の抱える課題とボランティアについて[グループ協議]。 ［時間外学習］教育・子育て分野のボランティアのついて調べておく。
7	企業のボランティア	企業の社会貢献活動・社会貢献家について。企業ボランティアの課題[グループ協議]。 ［時間外学習］どんな企業の社会貢献活動があるかを調べておく。
8	ボランティアを始めよう	これまでの学習を振り返り、ボランティア活動の準備と注意点について考える。地域のボランティア[グループ協議、発表学修]。
9	/	/
10	/	/
11	/	/
12	/	/
13	/	/
14	/	/
15	/	/

《教養科目》

科目名	生活の科学				
担当者氏名	落合　啓志				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 教養 ○　2-2 知識・技能				

《授業の概要》
生活の中にある平凡な事象から科学を見出し、グループ討議・発表、観察・実験などを通して生活に役立つ知識や科学的な見方・考え方を修得する。なお、グループ討議は３人程度で行い、グループのメンバーは毎回変更する。実験のある授業は２０人程度で行い、履修者が多い場合は２回に分けて行う。

《授業の到達目標》
生活の中にある事象について、多面的・多角的・総合的にとらえ、根拠を示して説明したり、科学的な思考ができる。

《成績評価の方法》
筆記試験（２０%）、毎回の授業のまとめや感想をポートフォリオにて提出（８0%）を総合的に評価し、６０点以上を合格とする。

《テキスト》
なし

《参考図書》
なし。必要に応じて授業の中で紹介する。

《授業時間外学習》
本授業では29時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》
提出されたポートフォリオは内容を確認し、コメントを付してフィードバックします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	科学的ってどういうこと？	情報をそのままうのみにするとだまされることもあります。だまされないために科学的に考えることの意義を学びます。
2	タマゴから見えてくる科学　実験編	タマゴを使って、いろいろな実験をしてみましょう。　たかがタマゴ、されどタマゴ。そこから科学が見えてきます。
3	タマゴから見えてくる科学　生命編	ニワトリのタマゴの不思議について、いろいろな角度から見ていきます。そこから科学が見えてきます。
4	紙切れ１枚から見えてくる科学	紙切れを使って、いろいろな実験をしてみましょう。　たかが紙切れ、されど紙切れ。そこから科学が見えてきます。
5	タンポポから見えてくる科学	日頃見かけるタンポポには驚かされることがいっぱい。　タンポポを科学してみます。
6	チョコレートから見えてくる科学	スーパーやコンビニで売っているチョコレートにも科学が存在します。また環境問題やＳＤＧｓ問題も潜んでいます
7	人間のからだから見えてくる科学	人間のからだって意外と不思議。どうしてこんなことになっているんだろう？　そこから科学が見えてきます。
8	災害から見えてくる科学＆試験	地震や台風、水害など避けて通れない災害を科学の目で見てみます。 ※第１～８回は、世の中の動きや受講者の学習状況によって一部変更もあります。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		